

安城の 農業



平成20年3月
安城市

目次

	ページ
1 安城市のあらまし	1
2 安城農業のあゆみ	2
3 安城農業の概要	3
4 安城市の農畜産物	6
5 農業粗生産額の市町村順位（愛知県内）	9
6 生産調整の実施状況	10
7 あんじょうエコ農業推進事業	11
8 農業委員会	13
9 農業経営基盤強化促進事業	13
10 農地保有合理化事業	15
11 相続税・農業者年金制度農地	15
12 体系・組織	16
13 安城産業文化公園「デンパーク」	17
14 道の駅デンパーク安城	20
15 あいち中央農業協同組合	20

1 安城市のあらまし

(1) 県下13番目の市として誕生（昭和27年5月5日）

安城市は、中部経済圏の中心名古屋市の30km圏内にあり、西三河平野の中央に位置しています。

鉄道はJR東海道新幹線、JR東海道本線、名鉄名古屋本線及び名鉄西尾線のそれぞれ主要な駅があり、道路は国道1号や国道23号が市域を横断しており、恵まれた交通体系が地域の発展に大きく寄与しています。

また、最近では工業化と宅地化の進展に伴い、農業の集約化、工業の先端化、商業の専門化が進んでいます。

市役所の位置	市 域		標 高	
東経 137度 4分 47秒 北緯 34度 57分 28秒	面 積	86.01km ²	最高標点	27.7m
	(市街化区域)	20.94km ²	最低標点	0.5m
	(市街化調整区域)	65.07km ²		
	南北 14.7km 東西 10.0km			

(2) 人口・世帯数

平成20年1月1日現在 単位：世帯、人

世帯数	人 口			人口密度 1km ² 当たり
	総 数	男	女	
65,274	177,607	91,002	86,605	2,065.0

(3) 気 象

気 温 (平成17年)	年間降水量 (平成17年)	年間降水日数 (平成17年)
平均気温 16.1	838 mm	103 日
最高気温 37.2		
最低気温 -2.4		

平 年 値 (昭和51年～平成17年の30年)	
平均気温 16.0	年降水量 1,286 mm
最高気温 36.9	年降水日数 106 日
最低気温 -3.9	

2 安城農業のあゆみ

(1) 明治用水の開さく

かつて安城市の大部分は、安城ヶ原、五箇野ヶ原、猿町ヶ原などと呼ばれた原野でした。都築弥厚、岡本兵松をはじめとする多くの先人たちの努力によって、明治13年(1880年)に明治用水(碧海郡今村上倉池までの新水路)が完成してから、以後年とともに幹線水路、支線水路がひかれ、原野は開墾され、水田に生まれ変わりました。

(2) 日本デンマークの由来

大正10年頃から昭和15年までの安城を中心とする碧海郡一帯は「日本デンマーク」と呼ばれていました。そのように呼ばれるに至ったのは、以下の理由によるものでした。

ア 明治30年代中頃、町農会、愛知県立農林学校、愛知県農事試験場が相次いで開設され、農都としての発展の基礎が築かれたこと。

イ 農林学校の初代校長として赴任した山崎延吉をはじめ良き指導者と明治用水の豊富な水資源に恵まれ、米麦を中心に畜産、そ菜、園芸など典型的な多角経営農業が行われたこと。

ウ 農民の協同意識が強く、農産物の販売や肥料などの購入を共同で行うなど、産業組合の普及・活動が特に盛んだったこと。

エ 零細貧困状態の農業を何とか引き上げようとする勤勉な精神を持っていたこと。また、全村学校運動により、一般にも学校が開放され、農村教育が行われたこと。

(3) 農業の組織化

昭和30年代に入ると土地基盤整備事業が進められ、さらに、昭和40年代には農業の近代化を図るため大型機械化を積極的に推進し、農業の組織化を全国に先駆けて実施しました。また、昭和53年に水田利用再編対策がスタートすると、集団転作などの課題に直面しましたが、昭和56年から集落に農用地利用改善組合を設立し、転作の集団化を成功させてきました。

(4) 集落農場構築構想

昭和63年度には、市・安城市農協・桜井農協・安城農業改良普及所との間で協議を重ね、集落全体を一つの農場として捉える集落農場構築構想を打ち出し、翌年度から農用地利用改善組合が実施主体となって集落ぐるみで農業振興に取り組む集落農場構築活動が展開されました。

3 安城農業の概要

(1) 農家数

単位：戸、人、%

年次	農家数						
	総数	専業	構成比	兼業			
				第一種	構成比	第二種	構成比
平成7年	3,219	279	8.7	384	11.9	2,556	79.4
平成12年	2,980	255	8.6	240	8.0	2,485	83.4
平成17年	1,819	282	15.5	316	17.4	1,221	67.1

備考 平成17年は販売農家（経営耕地面積が0.3ha以上又は、農産物販売金額が50万円以上の農家）のみの数値（農業センサス）

(2) 農家人口

単位：人、%

年次	平成7年	人口比	平成12年	人口比	平成17年	人口比
人口	16,524	11.1	12,454	7.8	8,941	5.3

（農業センサス）

(3) 経営耕地面積

単位：ha、%

年次	総数	田		畑		樹園地	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
平成7年	3,283	2,834	86.3	277	8.4	172	5.3
平成12年	3,127	2,681	85.7	282	9.0	164	5.2
平成17年	2,622	2,272	86.7	216	8.2	134	5.1

備考 平成17年は販売農家（経営耕地面積が0.3ha以上又は、農産物販売金額が50万円以上の農家）のみの数値（農業センサス）

(4) 1農家当たりの経営耕地面積

単位：ha

年次	平成7年	平成12年	平成17年
面積	1.02	1.05	1.44

（農業センサス）

(5) 農振農用地（色地）面積

単位：ha

年次	平成9年	平成12年	平成15年	平成18年	平成19年
面積	3,861	3,810	3,773	3,734	3,718

(6) 農地面積

(1月1日現在) 単位：ha

年次	平成9年	平成12年	平成15年	平成18年	平成19年
市街化区域	154	152	124	94	83
市街化調整区域	4,106	4,002	3,947	3,876	3,846
合計	4,260	4,154	4,071	3,969	3,929

(市税課)

(7) ほ場整備実施率

単位：%

年次	平成9年	平成12年	平成15年	平成17年	平成18年
実施率	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0

(土地改良課)

(8) パイプライン化実施率

単位：%

年次	平成9年	平成12年	平成15年	平成16年	平成18年
実施率	63.2	72.0	80.7	83.5	88.8

(土地改良課)

(9) 安城農業士会会員の状況

平成20年1月現在 単位：人

区分	稲作	施設野菜	露地野菜	花き	果樹	養豚	酪農肉牛	茶	計
農業経営士	14	10	0	6	1	0	0	0	31
青年農業士	2	0	2	3	1	0	1	1	10
安城農業士	9	15	3	8	1	2	2	0	40
合計	25	25	5	17	3	2	3	1	81

- * 農業経営士 昭和46年から県が認定
- * 青年農業士 昭和51年から県が認定
- * 安城農業士 会の認定(年齢36歳から)

(10) 新規就農者数

単位：人

年次	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
人数	9	10	4	5

(11) 認定農業者の状況

平成20年1月現在 単位：人、%

営農類型		認定農業者	構成比
単 一 経 営	稲作	54	29.0
	露地野菜	7	3.8
	施設野菜	23	12.4
	果樹類	4	2.2
	施設花き・花木	6	3.2
	酪農	3	1.6
	肉用牛	4	2.2
	養豚	3	1.6
	小計	104	56.0
複 合 経 営	稲作 + 露地野菜	5	2.7
	〃 + 施設野菜	35	18.8
	〃 + 果樹類	14	7.5
	〃 + 露地花き・花木	1	0.5
	〃 + 施設花き・花木	3	1.6
	〃 + 肉用牛	1	0.5
	〃 + 養豚	1	0.5
	施設野菜 + その他	6	3.2
	施設花き・花木 + その他	2	1.1
	その他作物	2	1.1
	複合経営	12	6.5
小計	82	44.0	
合計	186	100.0	

()は法人数

平成20年1月現在 単位：人、%

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計
認定農業者	4	16	40	64	38	15	1	178
構成比	2.2	9.0	22.5	36.0	21.3	8.4	0.6	100.0

ただし、法人分を除く。

4 安城市の農畜産物（平成18年）

(1) 水 稲

作付面積 1,800ヘクタール（県下第3位）

生産調整の拡大等により作付面積は減少傾向にありますが、経営耕地面積に占める水田面積の割合は約62%と高く、水稲作は本市農業の基幹をなしています。

品種は、「コシヒカリ」（約6割）、「あいちのかおりSBL」（約3割）が中心で、品種別団地化が推進されています。

(2) 小 麦

作付面積 1,280ヘクタール（県下第1位）

水田転換作物として振興が図られ、ほとんどが水田で集団転作によって栽培されています。品種は「農林61号」、「イワイノダイチ」が作付されています。

(3) 大 豆

作付面積 1,060ヘクタール（県下第1位）

麦の後作として定着し、農地の有効利用が図られています。品種は「フクユタカ」が作付されています。

(4) 施設野菜

ア きゅうり

作付面積 27ヘクタール（県下第1位）

大消費地に近く、気象条件もよいことから昭和30年頃から栽培が増え、南部地域を中心に栽培されています。

冬春きゅうりは西三河地域が野菜指定産地の指定を受けており、広域的な西三河冬春きゅうり部会の下、統一された品種・規格で地元中京市場へ出荷され、「三河みどり」のブランド名で販売されています。

イ いちご

作付面積 12ヘクタール

愛知県は、全国的に有名ないちごの生産県で、安城市は西三河産地の一翼を担っています。技術面では、昭和61年から無病苗の供給が始まり、ウイルス病の浸透防止に役立っています。

(5) 露地野菜

矢作川沖積層地域と南部地域を中心にして、なす、ほうれん草、だいこん、すいか、はくさい、キャベツなどが栽培されています。

(6) 果樹

ア 梨

栽培面積 75ヘクタール(県下第3位)

明治時代から栽培されて以来、安城市全域で栽培されるようになり、「安城なし」として親しまれてきました。

昭和54年から、それまでの「長十郎」、「二十世紀」から「幸水」、「豊水」、「新高」などへの品種転換がなされ、平成2年には新品種「愛甘水」が品種登録され、栽培されています。

また、平成18年度に既存の光センサー糖度測定器の改修により品質安定・熟度までの測定ができる「梨光センサー選果機一式」を導入し、「安城なし」のブランド化に一役買っています。

イ いちじく

栽培面積 53ヘクタール(県下第1位)

昭和46年頃から、転作を契機に作りやすさと収益性から急速に拡大が進み、産地づくりがなされ、隣接の碧南市とで**日本一の産地**となっています。

また、昭和60年頃からいちじくの加工への取り組みがなされ、ジャム、ワイン、糖果菓子等の製品化がなされています。

ウ ぶどう

栽培面積 15ヘクタール

昭和初期より東端地区でデラウェアの栽培が行われ、種なし技術の開発で収益性を伸ばし、現在では巨峰と合わせて15ヘクタール栽培されています。

(7) 施設花き

ア 鉢もの類

収穫面積 1,870アール

西三河地域は鉢もの類の生産では、全国でもトップクラスとなっており、本市では、観葉植物(660アール)を中心に、洋らん、シクラメンなどが生産されています。

イ 切り花

作付面積 806アール

菊を中心として、バラなども生産されています。

(8) 畜産

ア 乳用牛

飼養頭数 220頭

酪農ヘルパー制によりゆとりのある経営を目指しています。

イ 肉用牛

飼養頭数 940頭（和牛 760頭、乳用種 180頭）

生産管理マニュアルに基づいて、品質本位の生産に心がけ、「安城和牛」のブランド化をしています。

ウ 養豚

飼養頭数 4,300頭

一貫経営により飼養者が定着し、安心・安全・新鮮な豚肉の産直に力を入れています。

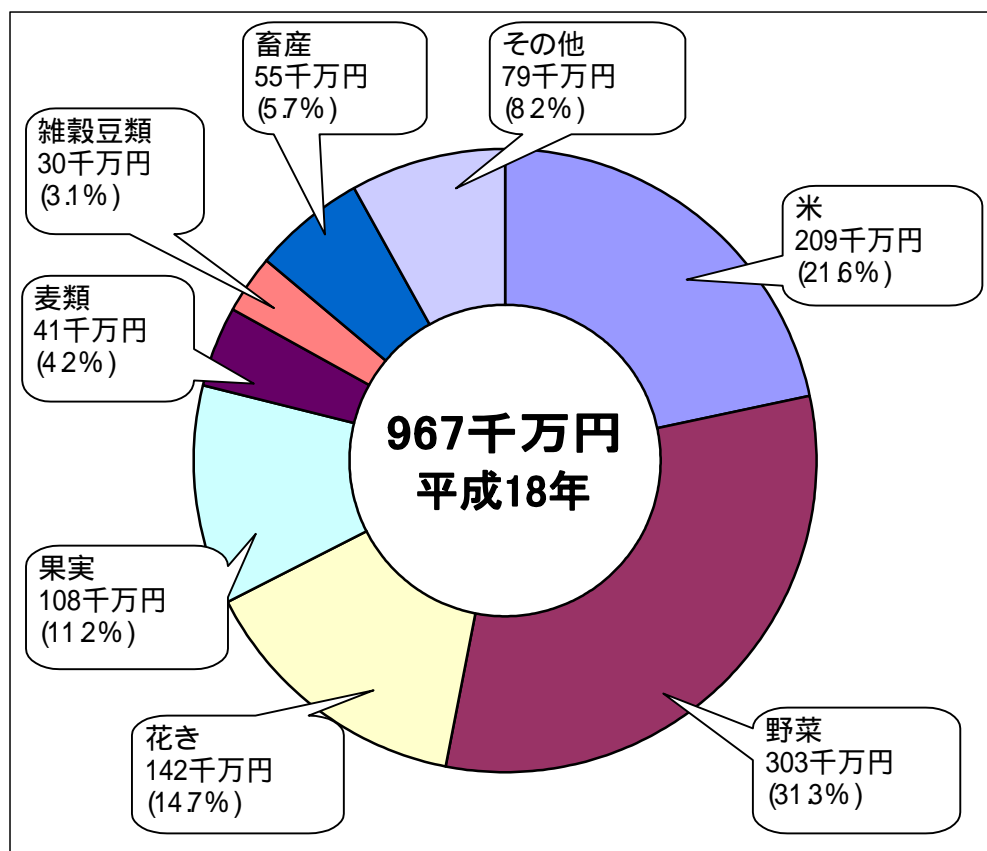
エ 養鶏

飼養羽数 24,000羽（成鶏）

経済移動により飼養羽数は減少傾向にあります。

（第54次 愛知農林水産統計年報）

(9) 農業生産額



（愛知農林水産統計年報）

5 農業粗生産額の市町村順位（愛知県内）

(1) 農業粗生産額の順位と生産農業所得（平成18年）

単位：千万円

順位	市町村	農業粗生産額
1位	田原市	7,244
2位	豊橋市	4,738
3位	豊川市	1,368
4位	豊田市	1,104
5位	西尾市	1,100
6位	安城市	967

（愛知農林水産統計年報）

(2) 部門別農畜産物粗生産額の順位（平成18年）

単位：千万円

順位	耕種計	米	麦類	雑穀・豆類	いも類
1位	田原市 5,566	豊田市 287	安城市 41	西尾市 32	豊橋市 16
2位	豊橋市 3,261	豊橋市 233	豊田市 30	安城市 30	豊田市 16
3位	豊川市 1,129	安城市 209	西尾市 29	岡崎市 17	名古屋市 11
4位	西尾市 962	一宮市 173	岡崎市 23	弥富市 13	岡崎市 11
5位	稲沢市 941	稲沢市 172	吉良町 11	吉良町 12	豊川市 10
6位	安城市 911				5位 安城市 10

順位	野菜計	果実計	花き計	畜産計	肉用牛
1位	豊橋市 2,262	蒲郡市 523	田原市 3,541	田原市 1,672	田原市 268
2位	田原市 1,827	豊橋市 201	豊橋市 458	豊橋市 1,476	豊橋市 164
3位	豊川市 675	豊田市 113	西尾市 367	半田市 645	半田市 134
4位	愛西市 525	安城市 108	豊川市 314	新城市 314	新城市 54
5位	碧南市 324	美浜町 105	稲沢市 217	豊田市 312	豊田市 46
6位	安城市 303		8位 安城市 142	25位 安城市 55	12位 安城市 11

（愛知農林水産統計年報）

6 生産調整の実施状況

(1) 水田農業構造改革対策実施状況（平成18年度）

単位：ha、%

区 分	安 城 市
転作実施面積	1,358.4
実績算入等面積	91.7
合 計	1,450.1
転 作 率	41.6
土地利用集積率	79.3
水稲作付目標面積(A)	1,883.1
水稲作付実施面積(B)	1,742.9
水稲作付実施率(B)/(A)	92.6

(2) 作物別転作等面積（平成18年度）

単位：ha

飼料作物 計	2.6	果樹 計	6.8	合 計	1,450.1
麦類 計	1,228.7	野菜	89.4		
豆類 計	9.1	その他作物	11.8		
花き種苗類	10.0	実績算入	91.7		

7 あんじょうエコ農業推進事業（市単独事業）

(1) 目 的

農用地利用改善組合の自発性と創意が十分発揮され、新たな集落農場の構築や転作の安定化を展開しつつ、特性を活かした魅力ある地域農業の発展を図る。

(2) 事業期間

平成18年度～平成20年度

(3) 補助金交付対象

各集落の農用地利用改善組合及びその組合員、JAあいち中央各部会（安城地区）

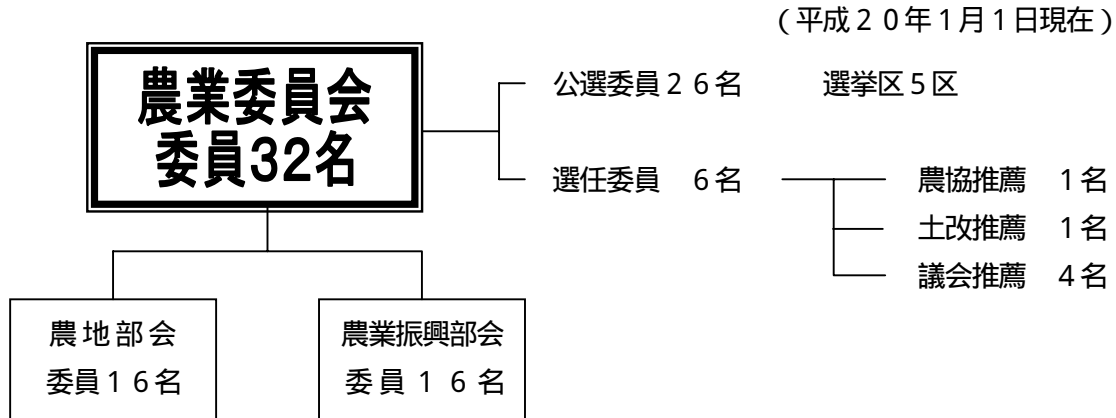
(4) 補助対象事業

項 目	補助対象事業	内 容
理想の経営	法人化推進	複数の農業経営者が法人化した場合
理想の特産	安城農産物特産品の新規栽培	いちじく、梨、きゅうり、チンゲンサイの新規栽培をした場合
	施設作物の新規栽培	施設作物の新規栽培をした場合
	安城特産果樹の改植	いちじく、梨の改植をした場合
理想の生産	転作団地化推進	転作地を団地化した場合
	面的集積	水田の面的集積を行った場合
	畦畔除去	水田の畦畔を除去した場合
	水稻低コスト栽培	水稻の低コスト栽培を実施した場合
	水稻の団地化栽培	水稻うるち品種の作付を団地化した場合
	麦の産地化推進	麦を収穫した後の農地に水稻を作付けした場合
理想の集落	農業祭・朝市・夕市の開催	農業祭又は朝市・夕市を実施した場合
	地産地消推進	消費者に対し、地産地消を推進する事業を実施した場合
	親しみ農業の推進	農業への理解を深める事業を実施した場合
	食育の推進	食への理解を深める事業を実施した場合
	広域集落活動の推進	2以上の集落が共同で農業振興のために活動を実施した場合
理想の環境	ほ場美化・土づくり	ほ場美化及び土づくりを実施した場合
	土づくり推進	堆肥による土づくりを実施した場合
	農地の清掃活動	集落内農地の清掃活動を実施した場合

項目	補助対象事業	内 容
理想の環境	環境に配慮した産地化推進	環境に配慮した産地化を図るための事業を実施した場合
	生分解性マルチを使用した産地化推進	生分解性マルチを使用した産地化を図るための事業を実施した場合
	環境保全の推進	農業用廃ポリ・廃ビニールの回収を実施した場合
	環境に配慮した提案型事業	環境に配慮した農業に関する独自の事業を実施した場合

8 農業委員会

(1) 農業委員会の構成



(2) 農地法関係申請・届出等の処理状況 (平成19年)

区 分		件 数	面 積 (m ²)
農地法第3条関係 (権利の移動)		108	171,503
農地法第4条関係 (自己所有地の転用)	許 可	48	11,518
	届 出	47	25,473
農地法第5条関係 (権利移動を伴う転用)	許 可	288	339,321
	届 出	158	72,557
農地法第20条関係 (小作地の解約)		194	316,932

9 農業経営基盤強化促進事業

(1) 事業概要

- ア 農用地の遊休地をなくし、有効利用を図る。
- イ 認定農業者の育成を図る。
- ウ 安心して農地を貸すことができる。
- エ 申し込みの窓口は農協支店で手続きが簡単。
- オ 借り手農家は市の認定した認定農業者に限定。
- カ 市、農協、農業委員会、営農部会の各機関が相談窓口。
- キ 集落ごとに設立した農用地利用改善組合(38組合)を通じ、日常活動中で積極的に推進を図る。

(2) 集落別利用権設定農地面積の状況

平成20年1月現在 単位：a

地区名	面積	地区名	面積	地区名	面積
里	8,585(36.8)	東尾・河野	1,698(17.2)	根崎	7,152(47.6)
志貴	4,640(32.5)	横山	1,242(34.7)	城ヶ入	4,993(41.4)
浜屋	1,353(50.1)	箕輪	5,069(46.2)	東端	8,259(40.8)
今村	2,320(45.6)	二本木	2,539(49.1)	堀内	2,651(46.6)
篠目・井杭山	1,607(23.0)	高棚	23,712(57.8)	藤野	2,002(20.2)
池浦	2,017(39.3)	福釜	13,117(54.6)	桜井	8,575(42.7)
新田	2,595(32.7)	赤松	8,665(53.5)	東町	815(28.6)
三別	2,644(66.3)	古井	2,153(36.8)	姫小川	393(26.5)
平貴	6,629(44.0)	石井	2,201(60.1)	小川	7,083(31.5)
上条	373(10.4)	和泉	8,092(50.0)	三ツ川	5,572(23.0)
西尾	3,673(34.5)	榎前	5,412(52.9)	計32集落	157,831(41.6)

* 面積は属地による。()内は設定率%

(3) 利用権による経営規模拡大状況

単位：人、%

農業経営規模	平成8年7月		平成17年7月		平成20年1月	
	受け手	構成比	受け手	構成比	受け手	構成比
7ha以上	59	45.7	60	42.8	66	43.1
7～5	15	11.5	4	2.9	8	5.2
5～3	13	10.0	11	7.9	4	2.6
3～2.5	2	1.5	1	0.7	4	2.6
2.5～2	9	6.9	8	5.7	7	4.6
2～1.5	10	7.6	15	10.7	10	6.5
1.5～1	15	11.5	25	17.9	11	7.2
1～0.7	3	2.3	6	4.3	14	9.2
0.7～0.5	1	0.7	7	5.0	14	9.2
0.5～0.3	3	2.3	3	2.1	15	9.8
計	130	100.0	140	100.0	153	100.0

* 法人の経営規模は、経営面積を当該構成員数で除したものの。

(4) 家族経営協定数

単位：人

年次	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計(累計)
調印家族数	0	5	5	6	16(50)

10 農地保有合理化事業

(1) 事業概要

- ア 農業経営の規模拡大、農地の集団化を目指す。
- イ 農地保有合理化法人が農地の移動に直接介在し、農業構造の改善を図る。
- ウ 主な事業は、農地等の買入れ、売渡し、借入れ、貸付け及び貸借料の一括前払い。

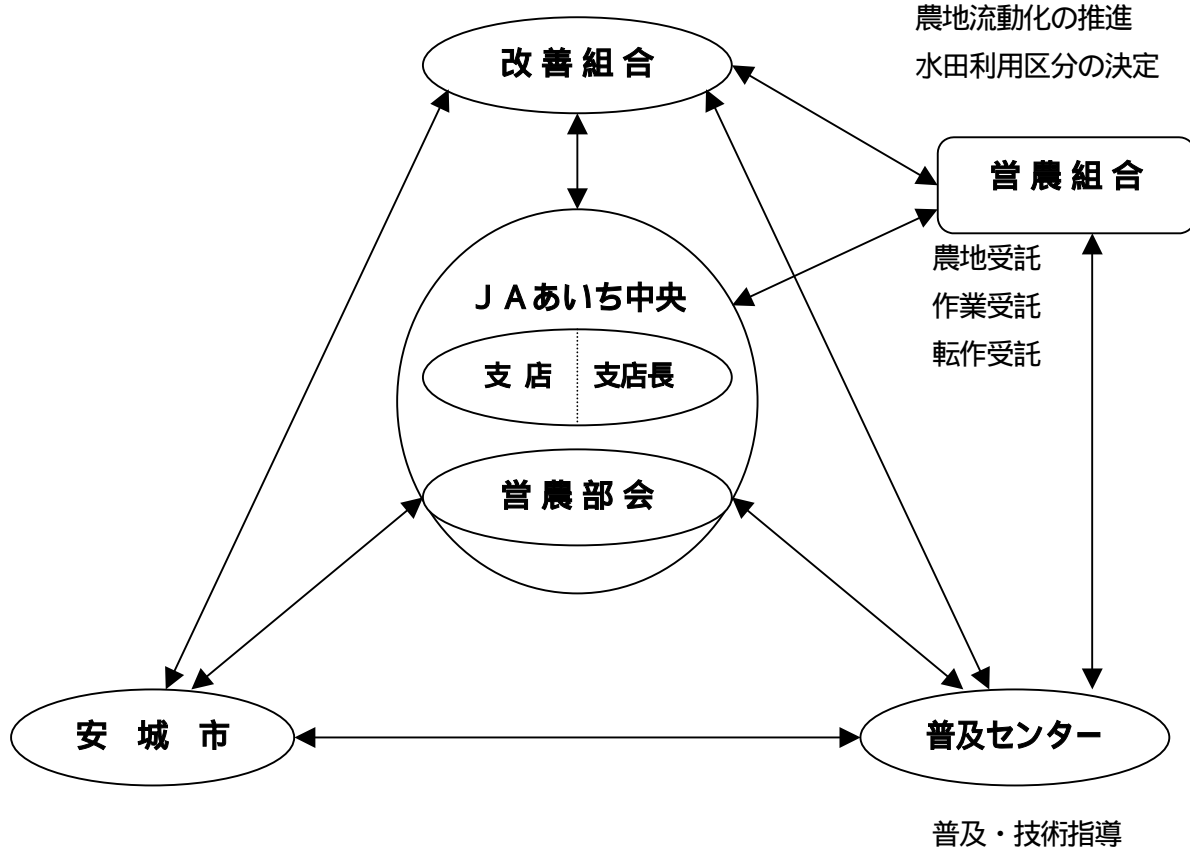
11 相続税・農業者年金制度農地

平成19年12月現在 単位：ha

区 分	農 地	相続税（贈与税） 納税猶予制度特例農地	農業者年金制度 特定処分対象農地
市街化区域 2,094	83	3.6	1.2
市街化調整区域 6,507	3,831	434.0	172.1
計 8,601	3,914	437.6	173.3

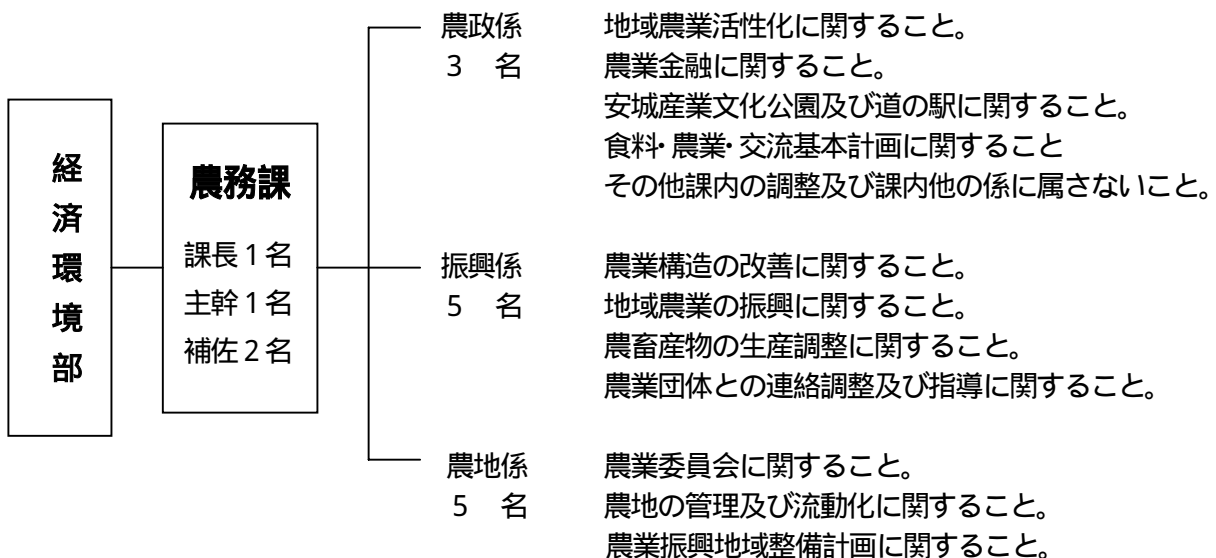
1 2 体系・組織

(1) 安城市の農業振興体系



(2) 農務課組織

(平成19年4月現在)



1 3 安城産業文化公園「デンパーク」

(1) 敷地面積

13.1ha (ナゴヤドームフィールド・10個分)

(2) 問い合わせ先

財団法人 安城都市農業振興協会 〒446-0046 安城市赤松町梶1番地

Tel 0566-92-7111 Fax 0566-92-7115

(3) 主な施設

施設の名 称	面積 (m ²)	施設 の 内 容
デンパーク館 (総合ターミナル施設)	734.36	展示ルーム、情報管理室、研修室 72名、会議室
クラブハウス (農業体験実習室)	820.60	園芸スタジオ 50名、シャワールーム、ファームキッチン
ガーデンレストラン (地域食材供給施設)	525.74	ルームタイプ 82名、ロジタイプ 136名、屋外タイプ 56席
ふるさと館 (地域食材供給施設)	453.97	郷土料理レストラン 120名、生活改善実行グループ連絡研究紹介コーナー、昔の居間コーナー 20席
マーケット (産地形成促進施設)	980.40	販売コーナー、工房コーナー、地元土産コーナー
フローラルプレイス (大温室)	3,811.22	エントランス(カフェテリア、AVホール 72席) アトリウム(憩いの空間、イベント会場、花の情報館、写真館、童話館、花工房、民家、ガーデンルーム)
地ビール工房	511.72	醸造所、見学コーナー、ブルワリーパブ 128席
マーガレットハウス (無料休憩施設)	536.37	軽食・休憩コーナー、販売コーナー

(4) 入園者数

年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
入園者数	546,307	538,980	491,005	428,057	465,662

(5) 補助事業名

農林水産省	農業農村活性化農業構造改善事業（平成5～6年） 地域農業基盤確立農業構造改善事業（平成7～8年）
愛知県	魅力ある愛知づくり事業（平成7～8年）

デンパークのあゆみ

平成元年	2月	市議会より「農業公園の建設についての要望書」の提出
平成4年	12月	基本計画の作成
平成5年	12月	公園の名称を「安城産業文化公園デンパーク」に決定
平成7年	3月	クラブハウス・ガーデンレストラン完成
	11月	デンマーク駐日大使来安
平成8年	1月	デンパーク館完成
	3月	マーケット・ふるさと館完成
	4月	財団法人 安城都市農業振興協会設立
	12月	花の大温室フローラルプレイス完成
平成9年	2月	花の大使に女優「紺野美沙子」を任命
	3月	地ビール工房完成
	4月	24日 竣工式典（参加 550人）コリング市（デンマーク）友好都市提携

4月 29日 グランドオープン

	5月	4日	入園者10万人達成
	7月	18日	入園者50万人達成
	11月	23日	入園者100万人達成
平成10年	3月	5日	高円宮同妃両殿下 デンパークお成り
	6月	7日	入園者150万人達成
	10月	10日	収穫祭開催にデンマークの「トリトナス」合唱団来園
平成11年	2月	26日	ジャパン花フェスタに出品
	3月	12日	フラワードーム'99 ガーデニング部門銀賞受賞
	4月	24日	入園者200万人達成 第1回ガーデニングコンテスト開催 ANJOフラワーフェスティバル'99をデンパーク館で開催
	10月	9日	収穫祭開催にデンマーク・コリング市より「コリング・プラス・カルテット」来園
平成12年	1月	10日	安城市成人式開催（今回からデンパークで）
	3月	15日	フラワードーム2000 ガーデニング部門金賞受賞
		25日	「風車の広場」オープン
	4月	29日	銀梅花除幕式典 デンマーク・コリング市より「コリング音楽学校」来園
	12月	3日	入園者300万人達成

- 平成13年 1月 8日 安城市成人式開催
 4月 10日 「道の駅デンパーク」開駅
- 平成14年 3月 15日 フラワードーム2002 ガーデニング部門金賞受賞
 9月 23日 **入園者400万人達成**
 10月 12日 デンマーク・コリング市の「コリング・リズムック合唱団」
 デンマーク「レゴランドバンド」来園
- 平成15年 7月 22日 レゴショップリニューアルオープン
 10月 1日 プライダルスタート
 10月 12日 デンマーク「マーチン・シャック・トリオ」来園
- 平成16年 8月 21日 **入園者500万人達成**
- 平成17年 4月 19日 デンマーク王国フレデリック皇太子来園
 7月 1日 株式会社デンソーから常務理事を招聘
- 平成18年 3月 17日 フラワードーム2006 フラワーディスプレイコンテスト部門
 愛知県議会議長賞(銀賞)受賞
 4月 1日 安城市指定管理者制度スタート
 10月 30日 **入園者600万人達成**
- 平成19年 1月 1日 株式会社デンソーから事務局長を招聘
 3月 15日 フラワードーム2007 あいち花フェスタディスプレイ部門
 最優秀賞受賞及びグランプリ受賞
 3月 17日 ローラー滑り台「スカイスライダー」新設

4月 29日 開園10周年を迎える

自動演奏オルゴール「ポール・ラッシュ」新設

1 4 道の駅デンパーク安城

(1) 施設内容 休憩・道路情報案内コーナー(64㎡)
物販・産直品コーナー(114㎡)

(2) 事業費 168百万円

(3) 問い合わせ先

道の駅デンパーク安城

〒446-0046 安城市赤松町梶5番地

Tel 0566-92-7114

1 5 あいち中央農業協同組合

(1) 設立の経緯

平成8年4月1日にJA碧南市、JA刈谷市、JA安城市、JA高浜市、JA知立市の碧海地区の5JAが合併してJAあいち中央として発足しました。

(2) 組合員・役員・職員数

平成19年3月末現在

組合員数(人)			役員数(人)			職員数(人)	
正組合員	准組合員	合計	理事	監事	合計	正職員	臨時職員
13,999	19,181	33,180	33	6	39	719	314

(3) 事業所

平成19年6月末現在

事業		所	
本店	1 (1)	営農センター	11 (3)
支店	38 (21)	Aコープ	1 (1)
電算センター	1 (1)	ガソリンスタンド	6 (3)
		資産相談センター	3 (1)
		旅行センター	1 (1)
		グリーンセンター	3 (2)
		農産物直売所	8 (3)

* ()内は安城市内に所在する事業所の内数

(4) 農振興計画



「やりがい農業者」「快汗たのしみいきがい農業者」「地域住民」「消費者」が「農」を軸として双方向に結びつきネットワークを構成し、共生により個々では実現困難な課題の解決、特性を活かした農業の展開，魅力ある地域農業と豊かな生活の実現を目指します。



- 重点項目の相互関連
(地域住民・消費者に支持される農業を展開します。)

- 安心安全な農産物生産
- 環境に配慮した農業
- 地産地消活動
- 地域農業の多面的機能のアピール



これらを総合的に行い、
地域住民・消費者に
支持される農業に努めます

(4) JAあいち中央総合センター（集合施設）の概要

総合センター（集合施設）概要

No.	施設名	完工年月	事業費(万円)	構造	面積㎡	備考
1	生活館	H2.05	29,950	鉄筋コンクリート	1,373	
2	精米工場	S63.10	15,749	鉄筋カラーベスト	772	H13.02精米設備一部更新
3	生活 新予約共同購入集配センター	H14.05	1,000	鉄骨折板		旧肥料倉庫改装
4	燃料センター事務所	H11.10	813	鉄骨折板	69	旧安城中部営農サブセンター
5	燃料倉庫	S47.10	132	鉄骨スレート	84	旧農薬庫
6	総合センター事務所	S48.08	12,140	鉄筋コンクリート	1,215	H6.06改装
7	資材倉庫	S43.08	1,182	鉄骨スレート	1,367	
8	梨選果場	S48.07	5,349	鉄骨スレート	1,081	処理能力年間1,000t
9	いちご選果場	S46.03	2,595	鉄骨ブロック	560	H10.12改修
10	いちじく集出荷場	S54.08	2,250	鉄骨スレート	311	H12.12冷凍機更新
11	予冷保冷庫	S59.10	8,930	鉄骨スレート	438	トンネル式予冷庫
12	大豆集出荷場	S56.07	4,877	鉄骨スレート	853	
13	パテコン収納庫	S56.03	7,000	鉄骨スレート	140	
14	カントリーヴィレッジ(喫茶)	H2.05	3,000	木造	160	客席50
15	総合センター給油所	S47.07	3,650	鉄筋コンクリート	2,450	
16	石油基地	S50.04	660			H4.計量機更新
17	農業機械センター	S46.03	9,300	鉄骨ブロック	2,100	H1.08改増築
18	自動車整備工場	S46.03	6,060	鉄骨スレート	879	H7.08増築
19	自動車展示場	S62.10	2,300	鉄筋折板	312	H6.05改装
20	営農資材倉庫	H14.05	2,000	鉄骨折板		旧バス車庫等改装
21	農薬庫					
22	営農部(営農資材)					
23	安城中部営農センター					
24	営農配送センター					
25	肥料倉庫					
26	プロパン庫	H5.12	320	鉄骨ブロック	47	
27	低湿倉庫	S44.10	9,400	鉄筋コンクリート	1,565	収容能力10万俵
28	種子センター	S45.10	1,259	鉄骨折板	930	H6.03増築
29	花卉集出荷場	S51.09	1,500	鉄骨スレート	330	
30	育苗センター	H6.03	15,000	鉄骨スレート	863	
31	胡瓜選果場(カッパドーム)	H8.12	74,000	鉄骨スレート	3,240	処理能力5,500t
32	カントリーエレベーター1号基	H2.06	70,000	鉄骨折板	610	各1基2,000t
33	カントリーエレベーター2号基					
34	カントリーエレベーター3号基	H6.08	90,000	鉄骨折板	993	各1基2,500t 色彩選別機導入
35	カントリーエレベーター4号基					
36	カントリーエレベーター5号基	S55.03	55,000	鉄骨折板	760	1基2,500t H15改修工事 色彩選別機導入
37	粉穀タンク	H1.08	2,245			容量700m ³
38	麦バラ出荷場	S57.12	17,000	鉄骨スレート		5基併設1,000t
39	麦専用サイロ	S57.12				
40	飼料倉庫	S50.08	808	鉄骨スレート	275	
41	穀物検査場	H16.03	1,610	鉄骨折板	151	

【総合センター全体写真】



安 城 の 農 業

発 行 安 城 市 農 務 課

発行日 平成 2 0 年 3 月